

五行歌会

ひめ



ぼ

通

た

信

る

リニューアル号

編集・発行

ひめぼたる五行歌会

ひめぼたる五行歌会についての問い合わせは、下記までお願い致します。

代表・事務局＝果林子(山口)

TEL&FAX

0195-22-4880

五行歌とは？

日々の暮らしのひとコマや、感じたこと、考えていることなどを、五行で表現する文芸です。

約束事は、自分のおもいを五行で表現する。一行は一息で読める長さにする。この二つだけです。

ひめぼたる通信リニューアル号発行にあたり

わたしたちは、二戸を拠点に活動する五行歌の愛好会です。活動四年目になる今年の春、これからの会のあり方をみんなで話し合い、「活動は全員が参加する」という基本方針を決めました。

そして、取り掛かったのが、「ひめぼたる通信」のリニューアルです。「あれいいね」など、励

ましの声があつた部分はそのままにし、新しいコーナーも生まれました。新しいのはどれかな、など楽しんでもらえれば嬉し

です。五行歌は、たつた五行でできる手のひらサイズの文芸です。日々の暮らしの中で感じたり、感動する場面に出逢つたり、過去を懐かしく思い出したり。ひ

とそれぞれの心の中にあるものを五行にすれば、それが作品になります。

実際にわたしたちのうた会を覗いてみませんか。見学だけでも大歓迎です。

毎日の暮らしの中で、ほんのちよつぴりの彩になつてもらえれば。そんな願いを込めて、この「ひめぼたる通信」を、あなたの許へお届けしたいと思つております。代表 果林子

1月うた会

一席ルナ 二席は浪岡末山

一席 二戸 ルナ

三席 二戸 山田憲路

北海道 園蛸

ごみ初収集の朝
今年もよろしくね
と言つたら
とびつきの笑顔
おもいがけないお年玉

新年
初滑り
ここはスキー場
と思いきや
近所の坂道だつた

朝納豆
昼メシ抜いて
夜(よ)も納豆
ピンポー人は
納豆漬け

二席 二戸 浪岡末山

三席 二戸 じーらん

軽米 すばい

無人の家
雪降る中に
とられなかつた柿が
たわわに
実つている

ガラガラガラッ
「おかえりー」
今日から三学期
一番乗りは
いちねんせい

フランスの寓話と
初めて知つた
ならば
お洒落として
火中の栗を拾う

二戸 果林子

知り合いのお母さん
80才でゴージャスに
はまったと聞く
何オになつても
「はじめて」の喜び

軽米 水無月子

「今年で最後にします…」
年賀状仕舞いの便りが続々と
高齢になつたため
SNSに切り替えるため
だめ押しは郵便料金の値上げか

山田憲路 うた読み

2024年1月27日(土)

一席のルナさんのうた。新年の朝、ごみ収集の青年にごあいさつ。代わりに受け取つたポチ袋からは、とびつきの笑顔がこぼれ出る。

二席の浪岡末山さんのうた。主無き家にも、手つかずの

柿にも、雪は等しく降り積もる。この世にはもう、その雪を払う者はいない。

三席のじぶんのうた。雪国ではいつも簡単に、近所の坂道がスキー場のコースに変身する。これが噂のゲレンデマジック？

三席のじーらんさんのうた。冬休みが終わり、今日から三学期。音を立てて開ける戸の奥には、子どもたちの第二のマイホームが待っている。

園蛸さんのうた。朝に夜と納豆をかき混ぜ、その日が暮れる。これがいわゆる、貧乏暇なし。

すばいさんのうた。神の啓示を受け、フランス王国のために、火中の栗を拾つたジャンヌ・ダルク。火傷ならまだしも、火あぶりは洒落にはならない。

果林子さんうた。「はじめ」は、挑戦と言う言葉と同義。ここは一つ、その勇氣にコーラで乾杯。

水無月子さんのうた。一年の節目を彩つてきた、年賀状の書き納め。時の流れに身を任せ、静かに筆を擱(お)く。

2月うた会

一席にルナ 二席は果林子

一席 二戸 ルナ

天と雪吊りに
みまもられ
六弁の梅
芳香の花芽が
ゆつくりと目をさます

二席 二戸 果林子

バス停で出会った人に
二戸のりんごが
おいしいと言われ
冬日なのに
ほつりぬぐだまる

三席 二戸 じーらん

20パーセント引きの
ドーナツ
運転席で
はむつと頬張る
夕飯作りはこれから

二戸 山田憲路

我は風邪の子
喉の奥に
節外れの熟柿(じゅくし)
実らせ
終日寝込む

二戸 浪岡末山

真冬の雪国に
屋根を打つ
雪融けの雫の音
老人をいたわる
地球温暖化

北海道 園蝸

生き甲斐は
書くことだ
だが、しかし
この頃カクのは
恥ばかり

軽米 水無月子

ついに我が家にも
コロナの黒い影が…
ワクチン接種回数
少なかつた割には
熱もせきも出なくて辛い

山田憲路 うた読み

2024年2月17日(土)

一席のルナさんのうた。
お天道様は見守っている。
春の足音を聞き、眠い目を
こすりながら、六弁の梅の
花が目覚めますのを。

二席の果林子さんうた。
思わぬ出会いで、話に花が
咲き、リンゴが実る。二戸
のりんごは、春よ来いなら
ぬ、冬に恋。

三席のじーらんさんの
うた。物価高の中、思わず
見つけた割引ドーナツ。は
むつと頬張り、フアイト一
発の栄養補給。
じぶんのうた。我は風
邪の子。吹雪にも、凍てつ
くような寒さにも負ける。
名前は同じでも、さすがの
賢治もあきれ顔。

浪岡末山さんのうた。
束の間の暖冬で、冬と春
が背中合わせに。雪解け
の雫が肩湯のように、老若
男女を静かに労(いた)わ
る。

園蝸さんのうた。「恥の
多い生涯を送って来まし
た」。太宰治に倣(なら)え
ば、それこそが、作家の証
か。

水無月子さんのうた。
抜き足、差し足、忍び足。
ついに我が家にも、黒い忍
者が出没。幸い、自分の分
身に驚き、すぐに逃げ出
してくれた。

ひめぼたるエッセイOH!ホウ!
第一回「風呂敷包み、ひとつに」
執筆者 ルナ

六月のさわやかな風に吹か
れ、深緑に染まった山々に慰め
られるこの季節は、何があつて
も大丈夫と、自分を励ます力
を貰えるような気持ちになり
ます。にもかかわらず、小さな
事にも、すぐにあたふたして日
常を過ごしている私。トホホ…
そんな私も、「ひめぼたる五
行歌会」に出逢つて三年目に
なりますが、最近の自分の生
活を詠つた歌を紹介します。

縮緬のふろしきに
一生分の想い出を
包み込み
しつかりと結ぶ
それが我流終活

まもなく傘寿を迎える年
になります。平凡な人生だつた
と思いがちも、山あり谷あり
で、出会った人々には懐かし
さや感謝など、さまざまな思
いが溢れます。

そこで若い頃にまで遡り、自
分どの思いに折り合いをつけ、
年表のように順を追つて歌に
したならば、モヤモヤとした思
いや、それに付随する日記や手
紙、写真なども整理できるの

では、と考えたのです。
しかし、物へのこだわりより
も、心の総括は足踏みばかり
で、ドンドン前には進まない。手
が止まり、時間だけは立ち止
まらずに進んでいく。今日もま
た、ガラガラとした一日が終わ
る。でもこんな時間も、今だか
らこそ許される、大切なひと時
なのかもしれない。

最終的には、思いを歌に込
めて詠み、ノートに整理する。
大した物も息子たちに残して
はやれないけれど、風呂敷包み
ひとつに、私なりに何かを残し
てやれたら。いつの日か、息子た
ちが思い出して読んで、どこか
で生きるヒントになったならと
思つてしまふ自分があります。

「みずゞ」の繊細さもなく
「新子」の潔さも持つてない
私は老いたカナリヤ
でも歌つてもいいですか?
めぐり会えた五行歌

これは、ひめぼたるに入会後、
仲間にももらえた喜びを詠つ
た歌です。詩人の金子みずゞ
と、川柳作家の時実新子の作
品は、相反するようであり、ど
ちらも私の応援歌だと思つて
います。これから先も変わらず
に、二人に背中を押されなが
ら生きていく。